

# 岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月28日現在

## 今月の重点活動

### アスパラガス生産性の向上による安定生産を！

夏芽収穫に向けて立茎講習会や現地検討会を実施し、長期安定生産確立を図っている。さらに、アスパラガス新規導入にも取り組みを進めており、本年度は岐阜地域管内でハウス面積1haに達する見込み。農業普及課では特に低コスト生産に力を入れて、技術の普及に取り組んでいる。



【写真：立茎の講習会風景】 【写真：立茎中のハウス】 【写真：新規栽培者定植の様子】

## 主要農作物の生産振興

### ■麦 小麦出穂遅れ・赤かび病防除啓発

管内の小麦栽培地域（岐阜・羽島・本巣）における小麦の出穂・生育状況調査をJAと連携して実施した。出穂は平年より3～4日遅れの4月19日頃となった。調査後、出穂後の赤かび病防除資料をJA・生産組織に提供し、高品質生産のための防除啓発を行った。

### ■いちご パッキングセンター自主運営で継続

昨年度から補助事業により試験稼働していた、JAぎふのいちごパッキングセンターでは3月に事業終了したため、4月から自主運営により継続を行っている。利用料金は45円/パックであるが、パッキングセンターがないと出荷調整作業が間に合わないため、6名の生産者が利用を継続した。利用生産者からは、「料金は高いが、今後も利用したいので、来年度産もセンター設置をしてほしい」と要望が上がっている。

### ■いちご 農商工連携事業の動き

出荷最盛期に収穫調整作業が間に合わないため、廃棄せざるを得ない、いちごが発生する。そのため、廃棄いちごの利用方法について昨年より農商工連携事業により岐阜商工会議所と連携して、業務用いちごとしての利用を進めている。

今回は、いちごシーズン終了後も利用出来るよう、1次加工（ヘタ取りと冷凍）を育児ママの団体（NPO）に委託して実施した。今後は、業者へ営業活動を行ってもらい、業務いちごの流通システムを構築していく。

### ■えだまめ GAP実践支援

昨年よりJAぎふえだまめ部会ではGAPを導入しており、農業普及課では栽培研修会等を通じて、GAP実践の支援を行っている。（4月 延べ175名）

### ■だいこん 祝大根（いわいだいこん）増産に向けて

祝大根の増産のため生産者に対してアンケート調査を実施した。今後、アンケート結果をもとに増産支援計画を検討する。

## ■だいこん 春大根の品質向上に向けて

4月上旬の出荷品に空洞症が多発したため、実態把握のためのアンケート調査を実施した。（1月の低温、乾燥が要因と思われる）

## ■柿 接ぎ木による品種更新の推進！

管内の柿産地では「西村早生」、「刀根早生」から「早秋」、「太秋」、「富有」等への品種更新を進めており、3月下旬から4月上旬にかけ各地域で接ぎ木講習会を開催して技術指導を行った。

## ■花き 生育障害等について現地対応を実施

管内の花き生産者ほ場（4品目）において発生した病害症状の現地確認、原因究明のための検鏡等を農業経営課（岐阜駐在）とも連携し実施し、生産者へ情報提供を行った。

## 担い手の育成・確保

### ■女性農業経営アドバイザー 管内では1名が新規認定

県女性農業経営アドバイザーの感謝状贈呈式・認定証交付式が4月14日に行われ、の櫻井千佳子さん（各務原市）が認定され、県内の新規認定者11名を代表して、「女性農業経営アドバイザーとして誇りを持って活動したい。」と誓いを述べた。今後、管内アドバイザーの活動支援を行う。なお、管内の感謝状贈呈者は4名（県内14名）

【写真：誓いの言葉を述べる櫻井千佳子さん】



### ■青年農業士 岐阜地域青年農業士連絡協議会総会を開催

岐阜地域青年農業士連絡協議会総会が4月13日に開催された。23年度は役員改選があり、新会長等の役員が選ばれた。また、新会員が3名増え20名となった。今後、地域の青年農業士の活動支援を行う。

## 地域の動き等

### ■岐阜市 〈直売所「おんさい広場」出荷者対象の栽培研修会を開催

おんさい広場では各地域協議会単位で栽培研修会を開催し、夏野菜の栽培管理や農薬の適正使用について指導した。

今後、出荷品目及び出荷量の拡大に向けて、作付け予定品目の調査や（地域によっては）単位協議会ごとに「園芸塾：栽培講習会」が実施される予定となっており支援を行う。

### ■岐阜地域 今年度活動について関係機関の連携を図る

J A ぎふ、全農、農業普及課の担当者により今年度の水田農業に関する活動計画について情報交換を行った。また、土づくり肥料の散布推進、ぎふクリーン農業の生産登録拡大、小麦品種「タマイズミ」の生産拡大等を図っていくため支援を行っていく。